

ビエンベニード！ エクアドル

5



写真提供「REVISTA ESTADIO」

エクアドル代表チームが鳥取にやって来るまで、よいよ一カ月を切りました。今回は、日本人で唯一、エクアドルのプロサッカーリーグで活躍、現在、エクアドル鳥取キャンプ委員会事務局スタッフを務める中川賀之さんの熱い想いと、世界に挑むエクアドル代表チームの中心選手を紹介します。

愛すべき第二の故郷

貧富の差がとても激しく、毎日の食べ物に困る人も多いエクアドル。それでも喜怒哀楽があり人間らしくて笑顔が素敵なエクアドル人。人生はお金や物ではなく、自分次第でいくらかでも楽しめるという気質のエクアドルは、私に多くを学ばせてくれた第二の故郷です。

エクアドルは、スペイン支配から独立して以来ペルーとの国境線がはつきりとせず、一九九五年には、その国境線上で戦争が勃発しました。戦争に敗れたエクアドルは、大きな産業である石油がたくさん埋まっているといわれるアマゾン地域を失い、国土面積も減少しました。国債が乱発され、インフレに拍車がかかり、国民の生活は著しく圧迫されていきました。

エクアドルを代表するもうひとつの産業であるバナナも、一九九七年～九八年のエルニーニョ現象で多くの被害を受けました。

私がエクアドルに渡ったのは、一九九八年でした。エルニーニョ現象による洪水、土砂崩れ、そして水不足、それらは農業に大打撃を与えたことはもちろんのこと、国内を陸路で移動することも困難な状況でした。

一九九九年にエルニーニョ現象がもたらした豪雨は、バナナ産業などをはじめとする農業を壊滅的狀態に追い込み、国の経済はすっかり破たんしました。サッカー選手の何割かは、給料をすべて米ドルに両替していましたが、シーズン始めは一千ドルであったのが、シーズン終わりでは五百ドル、という激しいインフレ状態でした。政府に対して怒りをぶつける国民が、大規模なストライキを何度も起こしました。国中の交通網が遮断され、水や食料の輸送もストップしました。いくつもの銀行が倒産し、突然の預金凍結もあり、生活は困窮を極めていきました。国中から責任を追究される大統領は何度も変わり、ついには国外逃亡し、国に愛想をつかした多く

エルニーニョ現象：南米ペルー沖の赤道域海水温が数年に一度上昇する現象で、大気の流れが変わることにより世界各地に異常気象を引き起こす。